

際立つ耐汚性—10年以上経っても汚れないとう真実

塗料の宿命「チョーキング現象」を回避



左の2棟は何れも塗装後13年を経過した集合住宅の「A=住居棟」と「B=物置」の壁面写真です。熱交換塗料で塗り替えられた壁面はほとんど汚れが確認できない反面、一般塗料を塗布した倉庫の方は塗膜が汚染され「白亜化=チョーキング」が発生しています。真の耐用年数と「熱交換塗料」の高い耐汚効果を裏付ける分かりやすい事例です。

塗面の「美しさ」を永く保つ事ができます

熱の遮蔽を追求して生み出された「熱交換塗料」は、高度な「耐汚効果」をも兼ね備えています。時間経過で壊れて行くはずの塗膜中の樹脂成分が想像以上に安定していて経年変化に動じず汚れません。これは塗り替え期間の長期化を意味しますので「ランニングコストの削減」に大きく影響する事になります。塗装後の「熱交換塗料」と「一般塗料」の外壁部の違いは歴然としています。



激しい白亜化現象は、崩壊した塗膜がチョークのように手に付着します

◆白亜化=チョーキングとは◆
塗料に含まれる二酸化チタニウムが引き起こす塗膜の自己崩壊。塗膜中の樹脂成分(有機質)をラジカルが破壊する現象で塗料の宿命である。表面が粉を吹いたようになり、手で触ると白くなる。「熱交換塗料」は主要混和剤が二酸化チタニウムの光触媒作用を阻止、親水性を持つ塗面が汚れを洗い流すため、塗膜の劣化が遅く美観の存続が長い。

(注) この写真は「壁面B」ではなく別の建物の壁面です。

